

7

区における まちづくりの方向性

(1) 区におけるまちづくりの方向性 224

(2) 区ビジョン基本方針

| | |
|-----|-----|
| 北区 | 230 |
| 東区 | 234 |
| 中央区 | 238 |
| 江南区 | 242 |
| 秋葉区 | 246 |
| 南区 | 250 |
| 西区 | 254 |
| 西蒲区 | 258 |

1 区における まちづくりの方向性

新潟市はこれまでの間、分権型政令市を目指し、市民生活に密着した行政サービスはできるだけ区役所が行うことができるよう、8つの区役所を市政のメインステージと位置づけ、区が持つ権限や財源の強化を図ってきました。

また、地域のことを地域自らが考え、自らが行動できることを目指し、自治基本条例の制定や、区自治協議会*1の設置により、地域の特性を活かした自治を進めてきました。

8つの区は、それぞれの地域を形づくってきた歴史と固有の文化、地域資源や風土に合った産業など、様々な特色と魅力にあふれています。それぞれの区の持つ特色と魅力が「新潟市」という集合体として一つになることで、「都市と田園の調和によりもたらされる暮らしやすさ」をはじめとした、新潟市の「強み」を生み出しています。

人口減少時代に躍進する「活力あふれるまちづくり」と「持続可能なまちづくり」を進め「田園の恵みを感じながら 心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」を実現するためには、区の特色を活かしたまちづくりを推進するとともに、区を超えた連携や多様な主体との協働を進め、その魅力を発展させ続けていくことが重要です。

これまで以上に区の特色を前面に押し出しながら、地域の特性を活かした活力と魅力あふれる区づくりを進められるよう、必要な予算や権限を持つ自治性の高い区役所を目指し、まちづくりの多様な主体と一体となって区政を推進していきます。

併せて、安心して暮らせる社会、持続可能な住民自治の仕組みをつくりあげていくため、市民や地域と進める住民自治を一層推進していくことで、分権型の市政運営を行います。

こうした考えのもと、区民のご意見をお聞きしながら、区自治協議会と区役所が協力・連携して策定した、区におけるまちづくりの基本的な方針となる「区ビジョン基本方針」を、基本計画の一部として掲げます。

また、「区ビジョン基本方針」に、「区の将来像」や「目指す区のすがた」を示し、区民と意識を共有するとともに、「区の特色」を掲げ、区の持つ魅力や強みを活かした、個性あふれるまちづくりを進めていきます。

各区においては、「区ビジョン基本方針」に基づき、まちづくりの具体的な取組を示す「区ビジョンまちづくり計画」を策定し、区民と一緒に取組を推進していきます。

*1 市民自治の推進を図るために、区民等と市をつなぐ「協働の要」として平成19（2007）年度に各区に設置された市長の附属機関のこと。

各区のすがた

| 項目 | | 新潟市全体 | 北 区 | 東 区 | 中央区 | |
|------|----------------------|-------------------------|---------------|--------------|--------------|---------------|
| 人口 | 総 数 | 令和2年人口(人) | 789,275 | 72,804 | 134,446 | 180,345 |
| | | 令和27年推計人口(人) | 631,510 | 55,285 | 100,674 | 160,995 |
| | 15歳未満 | 令和2年人口(人) 割合(%) | 91,224(11.6) | 8,195(11.3) | 15,867(11.8) | 19,599(10.9) |
| | | 令和27年推計人口(人) 割合(%) | 60,835(9.6) | 5,692(10.3) | 9,988(9.9) | 16,084(10.0) |
| | 15~64歳 | 令和2年人口(人) 割合(%) | 463,605(58.7) | 41,301(56.7) | 79,308(59.0) | 112,981(62.6) |
| | | 令和27年推計人口(人) 割合(%) | 317,625(50.3) | 28,700(51.9) | 52,253(51.9) | 87,623(54.4) |
| | 65歳以上 | 令和2年人口(人) 割合(%) | 234,446(29.7) | 23,308(32.0) | 39,271(29.2) | 47,765(26.5) |
| | | 令和27年推計人口(人) 割合(%) | 253,050(40.1) | 20,893(37.8) | 38,433(38.2) | 57,288(35.6) |
| | | 令和2年単身高齢者数(人) | 35,041 | 2,644 | 6,643 | 10,409 |
| | | 65歳以上人口に占める単身高齢者数の割合(%) | 14.9 | 11.3 | 16.9 | 21.8 |
| 人口動態 | 年間増減(人) | -5,024 | -779 | -1,129 | -552 | |
| | うち自然動態(人) | -4,310 | -509 | -632 | -737 | |
| | うち社会動態(人) | -714 | -270 | -497 | 185 | |
| 世 帯 | 世帯数(世帯) | 331,272 | 27,418 | 57,491 | 90,860 | |
| | 1世帯当たりの人員(人) | 2.4 | 2.7 | 2.3 | 2.0 | |
| | 核家族の割合(%) | 53.6 | 56.6 | 56.3 | 45.2 | |
| | 単独世帯の割合(%) | 35.1 | 27.5 | 33.8 | 48.6 | |
| | 3世代世帯の割合(%) | 7.1 | 10.5 | 5.9 | 3.0 | |
| 面 積 | 面積(km ²) | 726.28 | 107.61 | 38.63 | 37.75 | |

| | | | | | |
|-----|----------------|--------|-------|--------|--------|
| 農 業 | 農家戸数(戸) | 9,675 | 1,414 | 282 | 174 |
| | 基幹的農業従事者*1数(人) | 10,379 | 1,465 | 303 | 197 |
| | うち65歳以上の割合(%) | 67.8 | 68.6 | 62.7 | 59.4 |
| | 経営耕地面積(ha) | 28,463 | 3,991 | 713 | 384 |
| 工 業 | 事業所数(所) | 949 | 156 | 176 | 100 |
| | 従業者数(人) | 37,478 | 6,945 | 8,725 | 1,656 |
| | 製造品出荷額等(億円) | 11,469 | 3,405 | 2,962 | 244 |
| 商 業 | 事業所数(所) | 7,985 | 542 | 1,138 | 2,831 |
| | 従業者数(人) | 68,805 | 4,292 | 11,339 | 23,382 |
| | 年間商品販売額(億円) | 32,319 | 1,408 | 5,265 | 13,394 |

(出典)

人口：国勢調査（R2） 不詳補完値

推計値（新潟市全体）は国勢調査（R2）および人口動態統計特殊報告（H25～H29）から算出した新潟市独自推計値

推計値（各区）は新潟市全体の推計人口を、新潟市独自推計である「各区将来推計人口（H30）」の男女別5歳階級別の構成比から算出したもの

人口動態：新潟県人口移動調査（R3）

世帯：国勢調査（R2）

*1 ふだん仕事として主に自営農業に従事している者のこと。

| 江南区 | 秋葉区 | 南区 | 西区 | 西蒲区 | 項目 | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------------------------|--------|----|
| 67,972 | 75,069 | 43,437 | 160,656 | 54,546 | 令和2年人口(人) | 総数 | 人口 |
| 51,875 | 55,965 | 30,282 | 140,380 | 36,054 | 令和27年推計人口(人) | | |
| 8,722(12.8) | 9,080(12.1) | 4,926(11.3) | 19,178(11.9) | 5,657(10.4) | 令和2年人口(人) 割合(%) | 15歳未満 | 人口 |
| 4,521(8.7) | 5,548(9.9) | 2,594(8.6) | 15,115(10.8) | 2,898(8.0) | 令和27年推計人口(人) 割合(%) | | |
| 38,653(56.9) | 41,904(55.8) | 24,761(57.0) | 94,898(59.1) | 29,799(54.6) | 令和2年人口(人) 割合(%) | 15~64歳 | 人口 |
| 25,469(49.1) | 28,772(51.4) | 13,879(45.8) | 77,888(55.5) | 16,035(44.5) | 令和27年推計人口(人) 割合(%) | | |
| 20,597(30.3) | 24,085(32.1) | 13,750(31.7) | 46,580(29.0) | 19,090(35.0) | 令和2年人口(人) 割合(%) | 65歳以上 | 人口 |
| 21,885(42.2) | 21,645(38.7) | 13,809(45.6) | 47,377(33.7) | 17,121(47.5) | 令和27年推計人口(人) 割合(%) | | |
| 2,431 | 2,987 | 1,255 | 6,735 | 1,937 | 令和2年単身高齢者数(人) | | |
| 11.8 | 12.4 | 9.1 | 14.5 | 10.1 | 65歳以上人口に占める 単身高齢者数の割合(%) | 人口動態 | 人口 |
| -131 | -547 | -562 | -604 | -720 | 年間増減(人) | | |
| -319 | -500 | -373 | -722 | -518 | うち自然動態(人) | | |
| 188 | -47 | -189 | 118 | -202 | うち社会動態(人) | 世帯 | 世帯 |
| 24,891 | 28,003 | 14,922 | 69,006 | 18,681 | 世帯数(世帯) | | |
| 2.7 | 2.7 | 2.9 | 2.3 | 2.9 | 1世帯当たりの人員(人) | | |
| 61.9 | 60.1 | 56.9 | 53.8 | 56.5 | 核家族の割合(%) | | |
| 23.5 | 24.1 | 21.4 | 36.7 | 20.7 | 単独世帯の割合(%) | | |
| 9.6 | 10.2 | 14.9 | 5.6 | 16.0 | 3世代世帯の割合(%) | | |
| 75.42 | 95.38 | 100.91 | 94.00 | 176.57 | 面積(km ²) | 面積 | |

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|---------------|----|
| 1,319 | 1,192 | 1,828 | 1,170 | 2,296 | 農家戸数(戸) | 農業 |
| 1,403 | 1,129 | 2,261 | 1,504 | 2,117 | 基幹的農業従事者数(人) | |
| 70.2 | 70.9 | 64.4 | 61.0 | 74.1 | うち65歳以上の割合(%) | |
| 3,087 | 3,336 | 5,596 | 3,650 | 7,709 | 経営耕地面積(ha) | 工業 |
| 111 | 76 | 124 | 68 | 138 | 事業所数(所) | |
| 6,058 | 2,400 | 5,803 | 1,487 | 4,404 | 従業者数(人) | |
| 1,405 | 567 | 1,692 | 339 | 854 | 製造品出荷額等(億円) | 商業 |
| 743 | 604 | 442 | 1,154 | 531 | 事業所数(所) | |
| 6,576 | 4,606 | 2,925 | 12,519 | 3,166 | 従業者数(人) | |
| 2,860 | 1,068 | 818 | 6,826 | 680 | 年間商品販売額(億円) | |

面積：全国都道府県市区町村別面積調（R4.1）

農・工・商業：2020農林業センサス、工業統計調査（R2）、経済センサス（H28）

注記：推計値（新潟市全体）と推計値（各区）は、基準としているデータが異なるため、区別、年齢別の区別人口の合計値は新潟市全体の年齢別人口と一致しない

2

区ビジョン基本方針



北区

潟と大河と日本海、水の恵みに育まれ、
人と人がつながり、心豊かに支え合い、
発展するまち



阿賀野川ござれや花火



水の公園福島潟

区の特徴

福島潟をはじめ阿賀野川などの河川や日本海、水の恵みに育まれている北区。

かつては多くの水害が発生した地域ですが、新井郷川排水機場や福島潟放水路の整備により治水が保たれ、広大な田園地帯が形成される豊かな土地になりました。

また、新潟東港や主要幹線道路によるアクセスの良さを活かした工業団地の整備により、産業が発展しているほか、学術研究機関として大学も立地しています。

地域のまつりや阿賀野川ござれや花火などの伝統・文化を継承するとともに、心豊かに人とのつながりを大切にすまちです。

区の概要

地勢

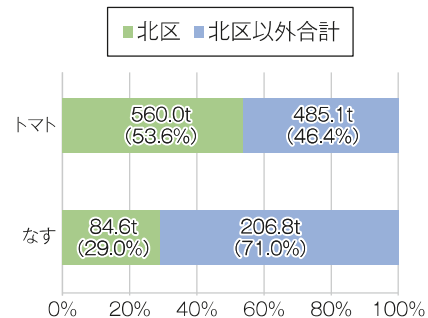
- 北区は、新潟市北東部の阿賀野川以北に位置し、東は新発田市、聖籠町、南は阿賀野市に隣接しています。
- 区の北側は日本海に面しており、海岸線と平行に砂丘地帯が形成されています。東に飯豊連峰、南には五頭連峰を望み雄大な田園風景が広がっており、近隣には月岡温泉があります。
- 区の南東部に位置する福島潟は、国の天然記念物オオヒシクイの日本有数の越冬地として知られています。

飛来するオオヒシクイ



- 国際拠点港湾である新潟東港は、本州日本海側最大のコンテナ貨物取扱量を誇り、国際物流やエネルギー供給の拠点となっています。
- 主要幹線道路や隣接区に国際空港があるなど、国内外のアクセスの良さから多数の工業団地が整備され、地域経済を支えています。
- 商業分野では、豊栄駅前地区、松浜地区の商店街の賑わいづくりに取り組んでいます。両地区では古くから露店市が開かれており、まちの台所として人々に親しまれています。

「北区産トマト・なす」の県内における出荷量



出典：全農にいがた作成資料（令和2年）

産業

- 農業分野では、「儲かる農業」の実現に向け、稲作を主体としつつ、園芸作物との経営複合化や園芸産地拡大にも積極的に取り組んでいます。中でも北区産のトマト、なすは県下一の出荷量を誇り、高い評価を受けています。

交通

- 主要幹線道路の日本海東北自動車道、国道7号（新新バイパス）、国道113号が東西を貫き、新潟中央環状道路*1をはじめとする県道、市道と結ばれ道路網を形成しています。鉄道はJR白新線が運行されており、区内には4つの駅があります。バスは市の中心部から南浜地区や新発田方面へと運行されているほか、区バス*2・住民バス*3などが区内の移動手段としての役割を担っています。

*1 北区を起点に、江南区、南区、西区を経由し、西蒲区に至る、延長約45キロメートルの幹線道路のこと。

*2 区制導入に伴い区役所への移動など新たに生じる移動ニーズや区のみちづくりに対応することを目的に、区が運行計画を立案し、交通事業者者に委託して運行する乗合バスのこと。

*3 バス路線の廃止問題を抱える地区や公共交通不便地域において、地元住民組織が主体となって運営する乗合バスのこと。

区の将来像

潟と大河と日本海、水の恵みに育まれ、人と人がつながり、
心豊かに支え合い、発展するまち

目指す区のすがた

自然の魅力輝くまち

- 福島潟、阿賀野川などの河川をはじめ、日本海に面した松林が続く海岸線や田園風景など、豊かな自然を守り、共生するまちを目指します。
- 豊かな自然環境と調和し、その魅力を活かして交流人口*1を拡大し、「キタクなるまち」を目指します。

自然の魅力あふれる北区



十二潟観察会(植生調査の様子)



未来へ続く活力あるまち

- 新潟東港や地域の魅力を活かした商工業の振興を進め、新しい時代へつながる活力あるまちを目指します。
- 若い力を活かし、地域の大学などと連携を深めながら、住み続けたいまちを目指します。
- 農産物の高品質化および付加価値向上を図り、「儲かる農業」を目指します。
- 道路アクセスの強化や公共交通の充実を進め、人やモノが交流する利便性の高いまちを目指します。

国際拠点港湾 新潟東港



県下一の出荷量を誇る北区産トマト



*1 観光目的やビジネス目的などでその地域を訪れる人々のこと。

いきいきと心豊かに暮らせるまち

- 誰もが安心していつまでも健康に暮らせるまちを目指します。
- 安心して子どもを産み育てることのできる環境をつくり、地域全体で子どもを支えていくまちを目指します。
- 文化・スポーツ活動を通して、学びあい心豊かに暮らせるまちを目指します。
- 地域コミュニティ協議会*1、自治会や区自治協議会などが協働し、様々な地域課題に取り組めるまちを目指します。

大学生による介護セミナー



子育て支援講座



福島潟駅伝競走大会



安心・安全で住みよいまち

- 防犯活動や交通安全などの課題を地域で助け合いながら解決し、子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまちを目指します。
- 地域と協働し、地域防災力向上を図り、区民一人一人が自ら行動し助け合うまちを目指します。
- 都市基盤施設を充実させ、災害に強いまちを目指します。

交通安全の推進



地域での防災訓練



雨水貯留施設の整備



*1 市民と市が協働して、地域のまちづくりやその他の諸課題に取り組む市民自治の推進を図るため、おおむね小学校区を基本単位として、自治会・町内会を中心に様々な団体等で構成された組織のこと。

東 区

産業と多様な魅力が調和し、
心豊かに暮らせるまち



まちを彩る工場夜景



緑が広がる寺山公園

区の特徴

東区は、製造業の事業所数・従業者数が市内で最も多い「産業のまち」です。

また、日本海や阿賀野川、信濃川、通船川など、豊かな水辺環境にも恵まれ、空と海の玄関口である新潟空港と新潟西港を有し、様々な人・モノが行き交う拠点となっています。

このほか、国内最北・県内最古のよろい片が出土した牡丹山諏訪神社古墳や、東区内にあるとの説が有力な浄足柵など、歴史的資源も豊富なまちです。

区の概要

地勢

- 東区は、信濃川河口部の東に位置し、日本海に面しています。西に信濃川と栗ノ木川、東に阿賀野川が流れ、中央には区の東西を横断する形で阿賀野川と信濃川を結ぶ通船川が流れています。
- 新潟空港と新潟西港があり、空と海の玄関口という側面も持ち合わせています。

産業

- 東区の産業は、明治後期から大正時代にかけて、石油採掘・工作機械等の製造を行う企業の進出にはじまり、昭和6（1931）年には全国的にも珍しい民営の臨港埠頭が整備され、昭和38（1963）年には火力発電所1号機の運転が開始されるなど、発展してきました。
- こうした背景から、区内には、金属製品や紙製品をはじめとした製造業の工場が集積し、製造業の事業所数・従業者数は市内第1位となっています。
- 農業は、区の南東部に広がる水田地帯を中心に行われている稲作のほか、下山のやわ肌ねぎや大形のじゃがいもなど、様々な農産物が生産されています。
- 河渡地区ではチューリップの球根栽培が行われています。

住宅街に希少な自然環境が残るじゅんさい池公園



交通

- 東西方向は国道7号（新潟バイパス・新新バイパス）、国道113号、県道新潟新発田村上線（旧国道7号）、南北方向は県道新潟港横越線（通称：赤道）などが整備され、優れた主要幹線道路網が形成されています。
- 鉄道は、JR信越本線の越後石山駅と白新線の東新潟駅、大形駅の3駅が配置されています。
- バス交通は、市の中心部と結ばれた路線が、主に東西方向で運行されており、区役所など主要施設への移動手段として区バス*1が運行されています。

*1 区制導入に伴い区役所への移動など新たに生じる移動ニーズや区のまちづくりに対応することを目的に、区が運行計画を立案し、交通事業者に委託して運行する乗合バスのこと。

区の将来像

産業と多様な魅力が調和し、心豊かに暮らせるまち

目指す区のすがた

活力ある産業と地域の魅力を活かして にぎわうまち

- 多様な産業と豊かな水辺環境、まちの玄関口である空港・港や文化・歴史など、東区独自の魅力を活用し区内外へ発信することにより、だれもが魅力を感じることができるまちを目指します。

クルーズ船の寄港地となっている新潟西港



だれもが互いに学び合い、共に育つまち

- 地域・学校・民間事業者・行政の連携を進めるとともに、幅広い世代や様々な立場の人々が学び合う機会を充実させることで、未来の担い手である子どもたちや地域を支える多様な人材が育つまちを目指します。

寺山公園での大学生と子どもたちとの交流



地域の人々が自分らしく活躍するまち

- 地域で活動する団体への支援の充実や団体間の連携により、地域課題を地域で解決できるまちを目指します。

地域課題の解決を目指す区自治協議会*1



安心して快適に暮らせるまち

- 地域全体で互いに支え合い、助け合いながら、だれもが健康で安心・安全に暮らせるまちを目指します。
- 交通の円滑化や生活交通の確保、地域との協働によるより良い生活環境づくりを通じて、快適で暮らしやすいまちを目指します。
- 生活に密着した情報発信や質の高い行政サービスの提供を通じて、身近で頼れる区役所を目指します。

園児を対象とした虫歯予防教室



区内の自治会・町内会による一斉清掃



災害時の避難所運営を想定したワークショップ



*1 市民自治の推進を図るために、区民等と市をつなぐ「協働の要」として平成19（2007）年度に各区に設置された市長の附属機関のこと。

中央区

にぎわう都心、豊かな自然、みなとまち文化が織りなす
活気あふれる拠点のまち



水辺のまち中央区
(R3フォトコンテストグランプリ作品)



高次都市機能と自然の共生

区の特徴

中央区には、海の玄関口である新潟西港と陸の玄関口である新潟駅が立地しています。この新潟駅周辺・万代・万代島・古町をつなぐ「にいがた2km」*1を中心に、金融機関をはじめとする企業の本・支店や百貨店などの各種小売店舗、飲食店、さらには大学や専門学校、多様な事業所などが立ち並び、新潟の中心市街地を形成しています。

また、中心市街地を離れると、市役所や複数の高等学校などが立地する地区や、国の機関や県庁などの広域行政施設が集積する地区などがあり、区内各所に都市機能が集積されています。そのほか、文化・芸術などの広域集客施設も数多く立地しており、名実ともに新潟の顔として新潟をけん引しています。

区の概要

地勢

- 中央区は、新潟市の放射状に伸びる交通軸の要に位置し、北は日本海に開け、中央には信濃川、東に粟ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟、さらに海岸線の白砂青松という水と緑に囲まれた地域です。
- 区内では土地の高度利用が進み、様々な都市機能が集積しています。その一方で、国の重要文化財である萬代橋やみなとまち新潟の面影を色濃く残す歴史的建造物など、伝統的文化を感じることもできるまちなみも存在しています。

信濃川と中央区の街並み



産業

- 古町、万代、新潟駅周辺に代表される市街地は、商業集積が賑わいを見せ、人・モノ・情報が活発に行き交う、新潟市の商業の中心となっています。近年は、IT関連企業の増加に伴い、IT関連企業集積地として企業の垣根を超えた新たな取組も生まれています。
- 北前船の交流により江戸時代初めから技術を積み重ねることで、伝統的工芸品に指定された新潟漆器や、良質な水や水運を活かした酒、みそ、しょう油、こうじ、漬物などの発酵食品も有名であり、これらを活かした新たな取組が進められています。

交通

- 区内には、国道7号や8号など複数の国道の起終点があるほか、主要な県道も中央区を起点に複数路線整備されており、北陸自動車道、磐越自動車道、日本海東北自動車道の3路線へのアクセスも良好です。また、新潟駅や新潟空港をはじめとする区内外の交通結節点*2や様々な施設などが結ばれています。
- 鉄道は、上越新幹線や在来線3路線が乗り入れている新潟駅があり、陸の玄関口として公共交通の結節機能強化に向けた整備が進んでいます。また、区内へ新たな駅の設置も決定しています。
- バスは、市内中心部や郊外に向けて多様な路線が運行されているとともに、新潟駅周辺は県内外主要都市への高速バスの発着地となっています。
- 海路では佐渡航路があり、信濃川においては、水上シャトル便が運行されています。

*1 新潟駅周辺・万代・万代島・古町をつなぐ約2 kmの都心軸周辺エリアの呼称のこと。

*2 バスのほか、電車やタクシー、自動車、自転車など様々な交通手段の接続が行われる乗り換え拠点のこと。

区の将来像

にぎわう都心、豊かな自然、みなとまち文化が織りなす
活気あふれる拠点のまち

目指す区のすがた

賑わいと活力あふれ訪れたいくなる拠点のまち

- 様々な高次都市機能^{*1}が集積した都心を有する区として、これまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、各地域の成り立ちや特色を活かしながら、人・モノ・情報が活発に行き交い、住む人、働く人、学ぶ人、そして観光やビジネスなどで訪れる人にとって魅力的で、賑わいあふれるまちを目指します。
- 美しい景観形成に努めるとともに歩きやすく自転車や公共交通など多様な手段で移動しやすい環境の整備を進め、まちなかの活性化に向けた回遊性向上を図ることにより、子どもからお年寄りまで誰もが出かけたいくなる利便性の高い、活力に満ちたまちを目指します。

東大通り



共につながり安心して暮らせるまち

- 少子高齢化の進行など、社会情勢が大きく変化する中、区民や区内で活動する団体同士のつながりによる持続可能な地域コミュニティ活動を支援し、年齢や性別、障がいのあるなしなどにかかわらず、互いに支えあい、助けあい、誰もが安心していきいきと暮らせるまちを目指します。
- 生活様式やニーズが多様化する中で、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進め、家庭・地域・学校が連携を深めることで、地域全体で子育てを支援するまちを目指します。
- 自然災害や都市型災害などの発生時に、一人一人が適切な判断と行動をとれるよう意識の向上を図るとともに、身近な地域の関係づくりを進め、誰もが安心して安全に暮らせるまちを目指します。

ハイパージュニアレスキュー隊訓練の様子



*1 商業・業務、教育、文化、交流、医療、福祉などの都市機能のうち、より広域の人々を対象として、質の高いサービスを提供する機能のこと。

水と緑に囲まれた自然と都市が共生するまち

- 都心部を流れる信濃川などの水辺空間や身近な緑を区民や事業者などと共に守り育てることで、一人一人が自然環境への愛着と誇りを持ち、自然と共生する美しくうらおいのあるまちを目指します。
- 市街地に多くの自然を残す鳥屋野瀉周辺や海岸沿いの松林などの豊かな自然を学びや体験、やすらぎの場として保全しながら利活用を図り、自然の豊かさを感じられる憩いのあるまちを目指します。

多くの自然を残す鳥屋野瀉



歴史と文化を受け継ぎ発展するまち

- 開港5港の一つとして古くから栄えた風情あふれるみなとまちの歴史・文化を受け継ぐとともに、食文化の魅力発信や新たな産業の創出・育成に取り組むことにより、様々な文化が融合した、未来につながるまちを目指します。
- 新潟まつりをはじめ、各地域に伝わる歴史・文化に多様な世代が親しむことができる環境をつくることで、文化の継承やまちなみの保存に対する意識を高め、住む人々が地域を愛し、地域を誇れるまちを目指します。

旧齋藤家別邸



汐見台クロマツ植樹 (区民協働森づくり事業)



新潟漆器



江南区

緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち



夕暮れの信濃川



田園と都市の風景

区の特徴

江南区は、信濃川、阿賀野川、小阿賀野川の三つの河川に囲まれ、豊かな水辺空間、広大な田園が広がっている一方、製造業などの多くの企業や大型商業施設が立地するなど、豊かな自然環境と都市機能が調和しています。また、国の登録有形文化財の北方文化博物館があるほか、神楽や木遣りといった郷土芸能が伝承されているなど、歴史と文化が感じられるまちです。

区の概要

地勢

- 江南区は、新潟市のほぼ中心に位置しており、東を阿賀野川、西を信濃川、南を小阿賀野川が流れ、北を日本海東北自動車道と接しています。亀田、横越、曾野木、大江山、両川の5つの地区で構成されており、豊かな自然と都市機能の調和が図られています。
- 土地は平坦で海拔ゼロメートル地帯が多く、かつては「地図にない湖」と呼ばれていましたが河川改修や土地改良事業により、広大な優良農地へと生まれ変わりました。

産業

- 高速道路のインターチェンジ周辺や主要幹線道路沿線には、大型商業施設があるほか、食品製造業をはじめとした多数の企業が立地する工業団地が整備されています。
- 広大な農地では、稲作のほか、なす、梅、梨、いちご、とうもろこしなど多様な農産物を供給する都市近郊型農業が営まれています。
- 新潟市中央卸売市場やその関連施設は、鮮魚、野菜、果樹、花きなどの生産と消費を結ぶ流通拠点として重要な役割を担っています。

北方文化博物館(大広間)



交通

- 高速道路は、磐越自動車道、日本海東北自動車道が通り、新潟駅などの主要な交通結節点*¹へは幹線道路で結ばれています。
- 公共交通はJR 信越本線で市内中心部へ移動できるほか、亀田駅を中心として路線バス、区バス*²、住民バス*³が各方面に運行されています。
- 整備中である新潟中央環状道路*⁴とJR 信越本線との交点に、(仮称)江南駅を設置する計画が進められています。

*1 バスのほか、電車やタクシー、自動車、自転車など様々な交通手段の接続が行われる乗り換え拠点のこと。

*2 区制導入に伴い区役所への移動など新たに生じる移動ニーズや区のまちづくりに対応することを目的に、区が運行計画を立案し、交通事業者に委託して運行する乗合バスのこと。

*3 バス路線の廃止問題を抱える地区や公共交通不便地域において、地元住民組織が主体となって運営する乗合バスのこと。

*4 北区を起点に、江南区、南区、西区を経由し、西蒲区に至る、延長約45キロメートルの幹線道路のこと。

区の将来像

緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち

目指す区のすがた

自然環境と都市機能を活かした 快適に暮らせるまち

- 緑豊かに広がる田園風景と信濃川、阿賀野川、小阿賀野川を結ぶ水と緑のネットワークづくりやその活用を図ります。また、自然と共生した環境にやさしいまちを未来の世代につなぐため、資源循環型社会の実現を目指します。
- 道路や公園などの社会資本を的確に整備・維持管理し、さらに有効活用するとともに、公共交通など人と物が移動しやすい環境形成を進めます。また、地域の課題解決や活性化につながる土地利用を促進し、持続的に発展するまちづくりを進めます。

新潟中央環状道路 横越バイパス



人と人とのつながりを大切にする 安心・安全なまち

- 様々な自然災害に備え、自治会・町内会、自主防災組織*1などと連携し、区民一人一人が適切な行動がとれる災害に強いまちを目指すほか、区民、警察、関係団体などと連携し、交通安全・防犯意識の向上を図るなど、安心・安全な地域づくりを進めます。
- 人と人、活動と活動をつなぐネットワークづくりや気軽に立ち寄れる交流の場づくりなど、みんなでささえあい、だれもが住み慣れた地域で健やかに安心して暮らせるまちを目指します。

こうなんふれ愛まつり



*1 地域住民が「自分たちのまちは自分たちで守る」という共助の精神に基づき、地域の防災活動のために自主的に結成された組織のこと。

産業と地域の魅力が輝くまち

- 魅力ある農産物をはじめ、伝統産業の亀田縞、新たな工業団地など、農商工それぞれの特性を活かした、持続可能な産業の形成を目指します。
- 区内商業地の拠点である亀田地区の賑わいづくりを進めるとともに、各地区が連携し、区全体の地域商業の活性化を目指します。
- 更なる企業誘致や農商工・農福連携*1による新たなビジネスの創出、若者のUターン就職に向けて取り組むなど、雇用機会の拡大を目指します。

機械によるキャベツの苗植え



人が輝き文化が育まれ健やかに過ごせるまち

- 将来を担う子どもたちの健やかな成長に向けて、学校と家庭、多世代にわたる地域住民との連携により、教育力の向上を図ります。
- 江南区が有する素晴らしい歴史や伝統を後世へ継承し、文化芸術などに触れる機会を提供するとともに、スポーツに親しむ環境づくりを進めるなど、地元を誇りや愛着を持ち、多様な個性が発揮できる生涯にわたり人が輝くまちを目指します。

稲作体験



区民が主役となる協働のまち

- 地域課題解決に向け、区自治協議会*2、地域コミュニティ協議会、自治会・町内会をはじめ多様な主体と共に互いの強みを活かし、相互連携を深めることで、区民が主役となる協働のまちづくりを進めます。
- 区民の視点に立って迅速・丁寧に対応するとともに、情報発信を強化し、親しみやすい区役所づくりを進めます。

区自治協議会でのワークショップ



*1 障がい者などが農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組のこと。

*2 市民自治の推進を図るために、区民等と市をつなぐ「協働の要」として平成19（2007）年度に各区に設置された市長の附属機関のこと。

秋葉区

里山と水に囲まれて 花と緑あふれる
笑顔咲きそろうまち



Akihaマウンテンプレーパーク



フラワーロードの菜の花

区の特徴

緑あふれるにいつ丘陵と、信濃川や阿賀野川など自然豊かな環境を貴重な財産ととらえ、市民協働による里山保全や水辺保全の活動に取り組みながら、にいつ丘陵を人・組織、遊び場・学びの場、健康やにぎわいづくりの拠点に位置づけて、秋葉区ならではの里山文化を感性豊かに磨いています。

日本有数の花き・花木の産地であり、古津八幡山遺跡や新津油田金津鋳場跡といった国史跡とSLばんえつ物語の定期運行など、花のまち、石油のまち、鉄道のまちとしての個性が全国に知られています。

区の概要

地勢

- 秋葉区は、新潟市の南東に位置し、東西を阿賀野川、信濃川の二大河川に囲まれ、北には小阿賀野川、区の中央には能代川・新津川が流れるほか、南には秋葉山、菩提寺山などの里山・丘陵地に囲まれた緑豊かな自然環境に恵まれています。
- 面積は95.38km²で、8区の中では西蒲区、北区、南区に次ぐ面積となり、全市域の約13%を占めています。

阿賀野川



産業

- 古くから花き・花木を生産し、区の大きな特色の一つとなっています。特にアザレア・ボケは日本有数の産地であり、チューリップの商業生産発祥の地として知られています。
- 産学官連携による、まちなかの活性化に向けた活動や、里山資源の活用などを含め新しい地場産業の形成を目指しています。

アザレア



交通

- 区内に7つのJR駅があり、新津駅では、信越本線・羽越本線・磐越西線が交わっています。会津若松駅間を走るSLばんえつ物語が、4月～11月の週末を主に運行されています。
- 国道403号が南北に、国道460号が東西に通っているほか、新潟と福島を結ぶ磐越自動車道の新津インターチェンジ、新津西スマートインターチェンジがあります。
- バスは新津駅を起点にして市中心部や、南区・五泉市方面などへ運行され、区民の足となっています。

SLばんえつ物語



区の将来像

里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち

目指す区のすがた

環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

- 産学公民が連携して、里山を拠点とした人と人とのつながりや学習環境の充実と健康づくりの取組を通して、多くの市民が集い、里山とまちが一体となった賑わいを創出し、愛着と誇りを持てる秋葉区ならではの里山文化の創造を目指すとともに魅力を発信していきます。
- 人々にやすらぎと潤いをもたらす緑豊かな里山や河川などの恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐべき貴重な財産ととらえ、人と自然が調和した美しい景観の保全と活用を図ります。
- 多様な主体がそれぞれの立場で、主体的にかつ協働しながら、環境に配慮したライフスタイルへの転換に取り組み、まちづくりと一体となった脱炭素社会の構築を推進するとともに、再生可能エネルギー^{*1}システムの構築を図ります。

にいつ丘陵遊歩道



やさしさがあふれる楽しく元気なまち

- 住民・地域・行政・学校が地域で連携・協働する、活気あふれる、楽しく、元気な、まちを目指します。
- 持続可能なまちづくりのため、区民との協働による、しなやかで柔軟な防犯・防災の地域づくりに努め、地域で助け合う安全・安心なまちを目指します。
- お互いを思いやる心、地域で共に助けあい支えあう心、自然にも人にもやさしい心を育み、誰もが笑顔ではつらつと暮らせるまちを目指します。
- 秋葉区の特色を活かしながら、多様な主体が協働しながら、子育て・教育環境を創り、次世代を育み続けたいと思えるまちづくりを目指します。

ひな・お宝めぐり



*1 太陽光、風力、水力、地熱及びバイオマス（動植物由来の有機物）など、自然環境の中で繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーの総称のこと。枯渇しない、どこにも存在する、CO₂を排出しない（増加させない）などの特徴がある。

歴史と個性を活かすまち

○里山や鉄道、石油、花き・花木、町屋など、歴史ある文化や宝物を地域との協働により、内外へ積極的に情報発信するとともに、受入体制の充実を図ることで、区の個性を活かした観光交流の盛んなまちを目指します。

新津油田金津鉱場跡



古津八幡山遺跡



○秋葉区固有の文化の継承および創造による発展と、スポーツ活動の振興に努め、健康で心身ともに豊かに過ごせるまちを目指します。

小須戸燈籠押しまつり



JR新津駅東西自由通路



里山遊び



可能性を生み出し・育て・活かすまち

秋葉山から市街地を望む



○秋葉区の食材・人材などの恵まれた地域資源を活かし、農商工・産学官の連携による企業誘致を目指すとともに、次世代に向けた新しい技術や産業を生み出し、新たな可能性が育ち定着するまちづくりを進めます。

○全国屈指の花き・花木の園芸産地の価値を発信するとともに、地域の魅力的な農産物のブランド化の推進や新技術の導入、担い手の育成に取り組むことで安定した農産物の供給を目指します。

○地域の暮らしや教育、産業など様々な分野でデジタル化を推進し、全ての人々が孤立することなくメリットを享受できるまちを目指します。

○秋葉区ならではの魅力の発信を強化し、働き方の変化による地方暮らしへの関心の高まりをとらえ、移住の促進と関係人口*1の創出を図ります。

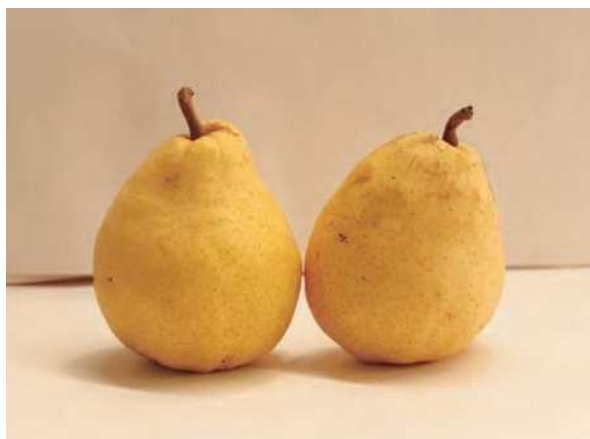
*1 地域内にルーツのある者や過去の勤務・滞在等の何らかの関わりがある者など、地域と多様に関わる人々のこと。移住した人を含みその地域に住んでいる「定住人口」、観光目的やビジネス目的などでその地域を訪れる「交流人口」とは異なる。

南区

風と大地の恵みに新たな希望が芽吹く、
郷土愛あふれるまち
～みんなでつくる暮らし続けたい南区～



先人の熱き思いを今に伝える白根大凧合戦



南区特産の西洋梨 ルレクチエ

区の特徴

南区は大河信濃川と中ノ口川が流れる自然豊かな田園地帯であり、四季折々の新鮮な農産物が生産されているほか、製造業が盛んです。300年の歴史を誇る「白根大風合戦」、江戸時代の大庄屋の邸宅「笹川邸（重要文化財 旧笹川家住宅）」、郷土芸能「角兵衛獅子」など、伝統と文化が今に継承されています。

区の概要

地勢

- 南区は、白根地区、味方地区、月瀧地区によって構成され、南北に長い地形で、市内8区の中で西蒲区、北区に次ぐ広大な面積を有しており、三条市、燕市、加茂市、田上町と隣接しています。
- 地勢は平坦で、区の東側を信濃川が、中央を中ノ口川が流れ、両河川によって育まれた肥沃な農地が広がっています。

白根大風合戦の会場となる中ノ口川とその両岸



産業

- 農業および製造業に携わる人の割合が市内でも高く、南区の主な産業となっています。
- 農業では稲作のほか畜産や園芸農業が盛んです。野菜や花の産地としても知られ、食用菊やチューリップの切り花が有名です。特に果樹栽培が盛んで、西洋なしのルレクチエをはじめとして魅力的な果物が生産されています。
- 製造業では、仏壇や鎌などの伝統的な地場産業のほか、工業団地を中心に国内で高いシェアを誇る企業が数多くあります。

交通

- 主要な道路は、国道8号が南北に、国道460号が東西に走っているほか、地域間の交流・連携や物流の軸となる新潟中央環状道路^{*1}の整備が進められています。
- 軌道系の交通機関がない南区ではバス交通が主要な役割を担っており、市中心部、秋葉区、西蒲区、加茂市、燕市、三条市方面へは路線バスが運行され、区内では区バス^{*2}や住民バス^{*3}が学生や高齢者の重要な交通手段となっています。

*1 北区を起点に、江南区、南区、西区を経由し、西蒲区に至る、延長約45キロメートルの幹線道路のこと。

*2 区制導入に伴い区役所への移動など新たに生じる移動ニーズや区のまちづくりに対応することを目的に、区が運行計画を立案し、交通事業者に委託して運行する乗合バスのこと。

*3 バス路線の廃止問題を抱える地区や公共交通不便地域において、地元住民組織が主体となって運営する乗合バスのこと。

区の将来像

風と大地の恵みに新たな希望が芽吹く、郷土愛あふれるまち
～みんなで作る暮らし続けたい南区～

目指す区のすがた

ともに築く安心に支えられるまち

○区民と行政が手を取り合い、幅広い世代が参加しながら地域の防災・交通安全・防犯意識の向上を図り、豊かな自然環境と調和した、安心・安全で暮らしやすいまちを目指します。

避難所運営訓練



交通安全教室



やさしさの輪が広がり、 誰もが主役として活躍できるまち

- 子どもを安心して産み育てることができるとともに、支え合いにより多様な立場の人がいつまでも健康で暮らせるまちを目指します。
- 生涯にわたるスポーツや学びが人生を豊かにし、区民が主役として輝くまちを目指します。
- 学校や地域、市民団体など、様々な主体による協働が新たな力を引き出すまちを目指します。

子育て広場



白根ハーフマラソン



行き交う人びとがにぎわいをもたらすまち

- 公共交通や幹線道路の整備をはじめ、多様な移動手段に支えられた誰もが移動しやすい環境の中で、人やモノが活発に行き交う活力あふれるまちを目指します。
- 産業支援や経営基盤強化を通して、より多くの雇用が生み出され、地場産業の歴史と技術が継承される、創造と伝統が融和した力強いまちを目指します。

南区バス「ぐるりん号」



地域の宝に気づき、守り、魅力あふれるまち

- 地域の魅力的な農産物を守り、育てるため、ブランド化の推進や担い手の育成、新技術の導入に取り組み、区内外で多くのファンの獲得を目指します。
- 白根大凧合戦、笹川邸、角兵衛獅子など、南区が誇る観光文化資源の活用と伝統文化の継承を推進し、これまでの枠にとらわれないあらゆる手段で魅力を発信することにより、交流人口*1の拡大を目指します。

県内有数の出荷量を誇るぶどう



笹川邸（重要文化財 旧笹川家住宅）



*1 観光目的やビジネス目的などでその地域を訪れる人々のこと。

西区

快適なくらしと、豊かな自然や食が調和する、
住み心地のよいまち



未来を担う子どもたちと夕日



地理的表示（GI）保護制度登録製品の「くろさき茶豆」

区の特徴

区内は鉄道沿線や幹線道路沿いを中心に良好な住宅地が形成され、南側一帯には広大な農地が広がっており、都市部と農村部がバランスよく存在しています。また、信濃川・中ノ口川・西川・新川といった河川、佐潟・御手洗潟といった潟、日本海など豊かな水辺環境があります。

併せて、高度な学術研究機関としての大学なども複数立地しています。

区の概要

地勢

○西区は、新潟市の信濃川および関屋分水路以西に位置し、北には日本海があり、河川や潟などの豊かな水辺環境があります。北西部には海岸砂丘地帯があり、南東部は平野となっています。

○区内の土地利用については、宅地が20.8%、農地が44.7%となっています。

にいがた西 海も坂道も美し区



産業

○幹線道路沿いには、多くの商業店舗や物流団地のほか、新たな工業用地が整備され、雇用機会の確保と地域経済の発展につながっています。また、古くからの商店街もあり、地域住民の生活やコミュニティを支えています。

○農業分野では、稲作を主体としながら畑作も盛んで、国の地理的表示（GI）保護制度^{*1}登録製品の「くろさき茶豆」や食と花の銘産品^{*2}の「いもジェンヌ」「新潟すいか」「やわ肌ねぎ」のほか、赤塚の大根などが県内外に知られています。

いもジェンヌ



交通

○主要道路は、区の東側を南北方向に北陸自動車道が通り、新潟西インターチェンジ・黒埼スマートインターチェンジがあるほか、国道8号が黒埼地区を横断しています。東西方向には国道116号や西大通などの幹線道路が坂井輪地区、西地区を横断しています。

○鉄道は、坂井輪地区、西地区を横断し、JR越後線の駅が7つ設置されています。バス路線も主に東西方向の幹線道路を中心に、市の中心部と結ばれ、南北方向のバス路線は区バス^{*3}が担っています。

くろさき茶豆大橋



西区バス「Qバス」



*1 品質ならびに社会的評価その他の確立した特性が産地と結びついている特産品について、その名称を知的財産として国が保護する制度のこと。

*2 新潟市が指定する、自信を持って全国に誇る自慢の農畜水産物のこと。

*3 区制導入に伴い区役所への移動など新たに生じる移動ニーズや区のまちづくりに対応することを目的に、区が運行計画を立案し、交通事業者に委託して運行する乗合バスのこと。

区の将来像

快適なくらしと、豊かな自然や食が調和する、住み心地のよいまち

目指す区のすがた

人と人がつながり、支え合うやさしいまち

- 地域の中で人と人とのつながりを大切にし、誰もが元気で健康的に生活できるまちを目指します。
- 子どもたちの健やかな育みを応援する、やさしいまちを目指します。

地域の茶の間



子育て支援、親子の居場所



安心・安全で快適に暮らせるまち

- 日頃から災害に備えやすく助け合える地域づくりを進めます。
- うるおいとゆとりのある快適な住環境づくりを進め、明るい笑顔で住みたい・住んで良かったと思えるまちづくりを目指します。
- 地域の産業を応援し、働きやすい、暮らしやすいまちづくりを進めます。

防災訓練



環境美化活動



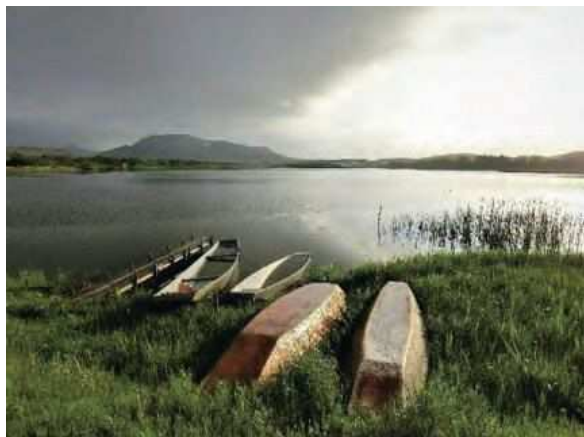
豊かな自然と食を楽しめるまち

- 長い海岸線や広大な砂浜、美しい夕日など、魅力ある海岸一帯を活用し、豊かに楽しく過ごせるまちを目指します。
- 先人が守り育てた水辺環境などの豊かな自然を未来に引き継いでいきます。
- ラムサール条約*¹湿地の佐潟、良好な砂丘景観、緑の田園風景など四季折々の魅力を発信し、自然を楽しめるまちを目指します。
- 魅力的な農産物の生産とブランド化を進め、地域の活性化につなげます。また、食でつながる一体感の醸成と地域への愛着を育みます。

青山海岸海水浴場



ラムサール条約湿地の佐潟



区民が主役の活力あるまち

- 自治会・町内会、地域コミュニティ協議会*²など、地域における自治を進め、区民と区役所が共に地域課題に取り組みます。
- 大学と地域がお互いにより身近な存在となり、大学の知と学生の力が、地域に賑わいと活力を生み出すまちを目指します。
- 大学、公民館、図書館などの学びの場を活用し、地域に根差した学び合いを応援するとともに、豊かなまちづくりに向けて多様な連携を深めていきます。
- 地域の歴史や音楽などの文化活動や、スポーツなどに親しむ人を応援し、区の活力につなげます。

地域と中学生の地域課題解決に向けたワークショップ



小学生向け運動教室



*1 正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。締約国には各湿地の管理計画の作成・実施、各条約湿地のモニタリング、湿地の保全に関する自然保護区の設定、湿地の保全管理に関する普及啓発・調査などが求められる。

*2 市民と市が協働して、地域のまちづくりやその他の諸課題に取り組み市民自治の推進を図るため、おおむね小学校区を基本単位として、自治会・町内会を中心に様々な団体等で構成された組織のこと。

西蒲区

豊かな自然、歴史と文化のかおりに満ちあふれ、
人と人があたたかくつながるまち



上堰湯公園から見た角田山



緑広がる田園風景

区の特徴

西蒲区は海・山・平野に抱かれた自然豊かな環境にあり、四季折々の魅力にあふれたエリアです。肥沃な越後平野には水田や畑が広がり、稲作を中心に、園芸作物の生産も盛んです。

また、いにしえより人々の暮らしが連続と続く歴史・文化と観光のまちでもあり、北国街道の湯治場として栄えてきた岩室温泉のほか、名所、史跡も数多くあります。

区の概要

地勢

- 西蒲区は、新潟市の南西部に位置し、南区、西区および長岡市、燕市、弥彦村と隣接しており面積は市内8区の中で最大です。
- 区の内陸部は広大な優良農地があり、信濃川の分流である西川と中ノロ川が流れています。
- 沿岸部は日本海に面し風光明媚な越後七浦海岸と角田山、多宝山、上堰潟を有しており、その周辺は佐渡弥彦米山国定公園に指定されています。

上空から見た角田山



産業

- 8区の中でも農家戸数が最も多く、経営耕地面積も最大です。
- 広大な農地では、稲作を中心に、柿・いちじくをはじめとする果樹や、すいか・ながいもなど多様な園芸作物の生産が盛んです。
- 農家レストランや農産物・ワイン等の直売所など6次産業化*1の取組により、周辺観光産業との相乗効果が生まれ、賑わいをもたらしています。
- 交通アクセスに恵まれた製造・物流拠点である漆山企業団地のほか、11の工業団地を有しており、特色のある企業が事業を展開しています。
- 恵まれた自然環境や歴史文化資源を活かした観光も重要な産業であり、中でも北国街道の湯治場で、開湯から300年を超える歴史ある岩室温泉は、新潟市唯一の温泉街として県内外から多くの観光客が訪れています。

交通

- 主要な道路は、区の中央部に地域の社会・経済活動を支える国道116号が、海岸線には奇岩織り成す景勝が楽しめる越後七浦シーサイドライン（国道402号）がそれぞれ南北方向に通じ、それらを結ぶ国道460号が東西方向に通っています。
- 区外とつながる幹線交通は、区の中央部を南北に縦断するJR越後線と、東部を縦断し多数の高速乗合バスが走る北陸自動車道があり、交通結節点*2として巻駅・越後曽根駅・岩室駅の3駅と、大規模駐車場を備える巻潟東インターチェンジが重要な役割を果たしています。
- 区内の移動を担う交通として、各交通結節点に接続する路線バスが運行されています。

*1 農林漁業者（1次産業従事者）が原材料供給者としてだけでなく、「地域資源」（農林水産物、バイオマス、自然エネルギーなど）を有効活用し、加工（2次産業）、流通（3次産業）に取り組み経営の多角化を進め、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。

*2 バスのほか、電車やタクシー、自動車、自転車など様々な交通手段の接続が行われる乗り換え拠点のこと。

区の将来像

豊かな自然、歴史と文化のかおりに満ちあふれ、
人と人があたたかくつながるまち

目指す区のすがた

魅力あふれる農水産物を供給するまち

- 「田園の恵みを感じながら心豊かに暮らせる日本海拠点都市」にふさわしい広大な優良農地や、2つの漁港を備える立地を活かし、高品質で多様な「西蒲ブランド」の農水産物の供給拠点となるまちを目指します。
- 生産者と消費者の交流を深める農業体験や、生産から加工・販売まで手がける6次産業化の推進により農業・水産業の魅力を伝えるとともに、力強い農業生産基盤などを整備・保全することで、将来の担い手が育つまちを目指します。

越王おけさ柿



いちじく「越の栗」



観光とスポーツ・レクリエーションのまち

- 越後七浦海岸、角田山、多宝山、上堰潟などの豊かな自然環境や北国街道をはじめとした歴史文化などの観光資源と岩室温泉をエリア全体で結び、地域一体となって多様な楽しみ方ができる観光拠点となるまちを目指します。
- 自然環境や観光資源を活かし、スポーツ・レクリエーションの普及・推進を図ることで、誰もが楽しく暮らすことのできるまちを目指します。

ウォーキングスポットである上堰潟公園



歴史と文化が生き続けるまち

- 遺跡や北国街道など、数多く残る歴史文化資源の保全と語り部の育成をしながら、いにしえからこの地に連綿と続く人々の営みと歩みを伝え続けます。
- 文化施設を拠点として、地域の文化活動やまつり開催を支援しながら、古くから伝わる郷土玩具の「鯛車」や「のぞきからくり」、「越後にしかわ傘ぼこ」など西蒲区の誇る文化を内外に積極的に発信するとともに、次代に継承するための人材育成に取り組み、後世まで伝え続けます。

郷土玩具「鯛車」



伝統ある「越後にしかわ傘ぼこ」



人が行き交い、にぎわいと活力があふれるまち

- 地域の实情に合った公共交通体系を深化させ、誰もが移動しやすく安全な交通環境を整えることで地域の交流促進を図り、人が行き交う賑わいのあるまちを目指します。
- 高速交通アクセスに恵まれた立地条件を活かした製造・物流業の活性化や、商工業の更なる振興により雇用創出を図ることで、活力あふれるまちを目指します。
- 交流人口の拡大や関係人口*1づくりを進め、地域内外の行き来を活性化させるとともに、定住人口確保を図ることで、持続可能なまちを目指します。

西蒲区 区バス*2



人の和でつながる 安心・安全なあたたかいまち

- 地域ぐるみで支え合う人の和を育み、誰もが笑顔で暮らし続けられるように、安心・安全で快適な生活基盤をつくり、あたたかみあふれるまちを目指します。
- 地域の誰もが次代を担う子どもたちの成長を支え、学び合いを通じて人と人とのつながりが生まれ、広がるまちを目指します。
- 健康づくりに対する意識啓発により健康寿命の延伸を図るとともに、子どもから高齢者、障がい者まで、誰もが地域の中でいきいきと暮らすことのできるまちを目指します。
- 地域課題の解決に向け、区自治協議会*3や地域コミュニティ協議会、自治会など、住民自治を担うあらゆる主体が連携を深め、一人一人に寄り添う、区民が主役のまちを目指します。

地域課題の解決を目指す区自治協議会



*1 地域内にルーツのある者や過去の勤務・滞在等の何らかの関わりがある者など、地域と多様に関わる人々のこと。移住した人を含みその地域に住んでいる「定住人口」、観光目的やビジネス目的などでその地域を訪れる「交流人口」とは異なる。
*2 区制導入に伴い区役所への移動など新たに生じる移動ニーズや区のまちづくりに対応することを目的に、区が運行計画を立案し、交通事業者に委託して運行する乗合バスのこと。託して運行する乗合バスのこと。
*3 市民自治の推進を図るために、区民等と市をつなぐ「協働の要」として平成19（2007）年度に各区に設置された市長の附属機関のこと。